

市民がつくりあげてきたまち

横浜の新しい魅力と個性

横浜は、関東大震災をはじめとして、戦災、米軍による接収、高度成長期の人口急増など幾多の苦難に遭遇してきたが、市民の英知と努力によってそれらの苦難を乗り越え、人口三二七万人を擁する日本第二の都市に成長した。

つまり、横浜を今日まで発展させてきたのは市民であり、横浜は市民がつくりあげてきたまちなのである。

すでに述べてきたように、高齢化社会の進行をはじめ、さまざまな社会の変化が進みつつあるいま、時代は新たな転換期を迎えている。このような時代の転換期の中で、市民は「快適で緑豊かな環境に家を持ちたい」「短時間でゆとりある通勤・通学をしたい」「スポーツ施設が身近に欲しい」といったさまざまな声を市に寄せており、こ

れらの声を総合すると、市民はゆとりや豊かさの感じられる暮らしや、生まれ育ったまちに愛着を持つことができ、また生涯を快適に安心して暮らせるような都市づくりを望んでいることがうかがえる。

こうした市民の要望に応え、市民が望む暮らしやまちを実現していくためには、多くの課題の克服が必要であるが、なによりも大切なのは、日々の暮らしの中から寄せられる市民の声を原点として、市民と行政とが一体となってその実現をめざすことではないだろうか。

加えて、住みやすい環境づくりという点で、横浜には独自の課題がある。

その課題とは、外国人にも開かれたまちの実現である。

横浜には開港以来、多くの外国人が技術、文化などさまざまな文物を持ち込んできた。それによって横浜はおおきに発展してきたのであり、外国人と共に歩んできたまちな

のである。だからこそ、外国人にとって住みやすいまちをつくることは、私たち横浜市民の責務といえるのではないだろうか。また、国際交流の先進都市であり、ピースメッセンジャー都市として多くの国からのゲストを迎えている横浜で、滞在中の外国人が分けへだてされることなく平等に暮らせるようなまちづくりを進めることは、国際交流をさらに進めていく上で欠かすことのできない条件といえる。

外国人が暮らしやすいまちづくりとは、外国人のためだけでなく、結局は市民にとっても暮らしやすいまちづくりとなるのは間違いない。

横浜市教育委員会が発行している『横浜の歴史(中学生用)』の巻末にはこう記されている。「横浜は生きている。石器時代の昔より現在にいたるまで、そして未来にいたるまで……。横浜は市民の町である。市民がつくりあげてきた町である。市民がつくりあげてきたまちは、首都圏

の中核都市となった。その存在は日本国内において重みだけでなく、国際社会の中でも重要性を増している。

三二七万人は優に一つの国の人口に匹敵し、国のGNPに相当する市民総支出の一兆二八三〇億円はトルコ、南アフリカのそれにほぼ等しい。誕生して百三十年代日本第二の、世界でも有数の都市に成長した横浜は、着実な発展が目ざされて、多くの国々から都市づくりのモデルとして高い関心を持たれるようになった。

横浜の動向はいま、日本の、そして世界の各都市から熱い視線を集めているのだ。そうした中で横浜は、「生活者のための都市・横浜」づくりを、二十一世紀の市民生活を想定しながら、市民が実際に生活するまちづくりから始めようとしている。



まちづくりの主役は市民の力と個性。21世紀の横浜は魅力に満ちたまちに違いない

■市民総支出の推移 (資料: 総務局)

